

長崎市営松山陸上競技場の現在地存続に関する陳情書

2024 年 8 月 22 日

長崎市議会議長
毎熊 政直様

陳情人

・住所

みなみ

てるひさ

・氏名

南

輝久

(長崎市平和公園問題市民連絡会、事務局長)



長崎市営松山陸上競技場の現在地存続に関する陳情書

1 陳情の趣旨

県が進める高規格道路「長崎南北幹線道路」のインターチェンジが長崎市松山町の平和公園西側スポーツゾーンの市民総合プールの位置に計画されたことで、同ゾーンの各スポーツ施設で最多の年間推計約 35 万人の老若男女が多様に利用している中心的施設、市営松山陸上競技場がプールの移転代替地とされ、中部下水処理場跡地（茂里町）へ移転される危機に瀕しています。

私たち被爆者 4 団体などで構成する「長崎市平和公園問題市民連絡会」は本来、長崎国際文化都市建設法と住民投票によって整備された平和公園に高規格道路を通すこと自体避けるべきだと思います。ただ、長崎南北幹線道路の建設計画が既に都市計画決定、事業化され進められている現在、私たちに残された道は、同道路の平和公園内通過を前提としつつ、その機能の減少をできる限り最小限にとどめることだと考えます。

プールを同下水処理場跡地へ移転させれば事は単純に済み、陸上競技場（陸上運動場）の整備費を市が負担する余分な支出は生じないにもかかわらず、市は 2022 年 8 月の第 4 回平和公園再整備基本計画検討委員会に「プールを陸上競技場へ移し、陸上競技場 400mトラックをどうするかは後で別途検討する」との基本方針案を提示して、陸上競技場利用者らの反対運動を呼び起こしました。方針案の理由を市は、①中部下水処理場跡地は交通アクセスが良くない、②同跡地は軟弱地盤で杭や地下構造物が埋まっており、基礎整備費が高つく、の 2 点を挙げ、市議会でも一貫してそのように説明してきました。

鈴木史朗市長は市営松山平和運動公園を守る会の請願が 22 年 12 月に全会一致で採択されたことを重視し、基本計画検討委員会の中に再検討部会を発足。23 年 9 月から同部会の審議が続けられてきましたが、24 年 6 月、検討委員会と再検討部会より「中間報告書」が市長に提出されました。市長はこれを受け「早期に判断したい」と答えていますが、再検討部会の中では、①のアクセスの問題は事実上否定され、②の整備費についても市の積算に専門家から大きな疑問が投げかけられて、市は工法選択や積算の根拠について明確な回答をいまだ行っておりません。さらに、「中間報告」においても、残された大きな論点として「まちづくり」「平和公園の在り方」が挙げられていますが、市は守る会に「再検討部会での審議は終わった」と半ば一方的に伝えつつ、守る会が「再検討部会をやむなく解散する場合は、検討委員会の委員に陸上と水泳の関係者、専門家、被爆者団体の代表も入れるように」と申し入れていたにもかかわらず、答えはありません。このため守る会は、請願が謳った「慎重丁寧な調査検討」にそぐわない進め方を市が行っているとして、7 月、市長と検討委員長、再検討部長あてに意見書・申し入れ書を提出しました。

2 陳情項目

松山陸上競技場を現在地に残していただきたい。

原爆投下の中心域で阿鼻叫喚の場と化した同陸上競技場が投下前の形状をほぼそのまま残した中で、中高校生の部活動の拠点、市民のランニングやウォーキング、リハビリ、ラジオ体操、レクリエーションの場、多世代交流のオアシスとして、「市民の宝の空間」になっていることをご理解賜り、世界に平和の大切さを発信する同陸上競技場を現在地に残すためご尽力いただきますよう強く要望いたします。

このままでは、再検討部会や検討委員会で肝心の論議が尽くされていない状態で、市が「最終判断」を下す恐れがあります。公正な審査のためにもぜひ、建設水道委員会では本陳情書を取り上げ、併せて、関係人として専門家二人の陳述の機会を設けていただきますようお願いいたします。まちづくりからの観点と、中部下水処理場跡地の整備費について、です。ご検討宜しく願います。

(陳情書 別紙)

長崎市平和公園問題市民連絡会

(団体・個人で構成)

長崎原爆被災者協議会

長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会

長崎県被爆者手帳友の会

長崎原爆遺族会

長崎市営松山平和運動公園を守る会

長崎市営松山陸上競技場・平和公園を守り隊

長崎市陸上競技協会

スポーツを楽しむ長崎障がい者の会

長崎市伴走者協会

「オアシス」松山を愛するウォーキング市民の会

松山ラジオ体操で健康づくりの会

浦上川花と緑の会

平和・松山・城山・城栄愛商会

(松山陸上競技場の現在地存続を要望し、陳情に賛同します)

小宮 伸仁(県被爆二世の会会長)

崎山 昇(県被爆二世の会事務局長)、

藤本 浩司(県被爆二世の会)

川副 忠子(長崎原爆被爆教職員の会会長)

南 嘉久(福岡県原爆被害者団体協議会事務局長＝長崎市出身)、

山川 剛(長崎の証言の会)

平野 伸人(平和活動支援センター所長)

上村 祥子(小ヶ倉・ダイヤモンド平和学習会世話人)

池田 ひとみ(核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ実行委員会)

園田 鉄美(城山九条の会)

鴨川 弘(アジア交流友の会)

蓑田 剛治(団体役員)

大賀 和男(長崎大学アジア留学生奨学基金理事)

藤原 法子(市民運動ネットワーク長崎代表)

門 更月(市民運動ネットワーク長崎事務局長)

長嶋 恵理子(女の平和 in 長崎共同代表)

森下 絹子(市民運動ネットワーク長崎)

向井 恵美子(市民運動ネットワーク長崎)

有本 久美子(市民運動ネットワーク長崎)

松尾 実味子(市民運動ネットワーク長崎)

関口 達夫(言論の自由と知る権利を守る長崎市民の会事務局長)

中野 清(言論の自由と知る権利を守る長崎市民の会幹事)

田中 隆(民放労連長崎ビジョン労働組合執行委員長)

西中須 盈(フリージャーナリスト)

西岡 由香(漫画家)

北城 裕士(平和を歌うシンガー・ソングライター)

木村 誠(ミュージシャン)

松崎 ヨシ子(県水泳連盟普及指導員)

原 拓也(城山自治会会長)

池田 文夫(橋口町老人クラブ会長)

永石 光浩(南町自治会会長、大浦地区交通安全協会北大浦支部長)

永石 厚子(南町婦人防火クラブ代表)

榊 英憲(飲食店経営)

松本 光枝(喫茶店経営)

大石 千枝子(喫茶レストラン経営)

田中 耕一郎(宿泊施設経営)

池知 和恭(養生所を考える会代表)

田代 圭介(特定公益法人役員)

石橋 義孝(防災士、防犯設備士)

石橋 久美子(防災技術研究会、防犯設備士)

長崎走ろう会など 11 団体

純心学園

瓊浦高、純心高、純心中の各陸上部顧問

長崎アスリートクラブ

三菱重工マラソン部

十八親和銀行女子陸上部

メモリード女子陸上部

長崎陸上クラブ、

陸上競技 24 団体